

いわちゃんポスト

千葉県議会議員

岩井 やすのり



1970年生まれ48歳 早稲田大学大学院政治学研究科修了
県議当選2期目 若手県議として地域の課題に取り組みます！

HP <http://www.iwai-y.jp>

mail mail@iwai-y.jp

栄町・安食交差点改良

新年度からの事業化が決定！

慢性的な渋滞ポイントとして問題視されてきた、国道356号安食交差点。平成24年以降、町とともに交差点改良の実施を求めてきましたが、県は新年度から新規事業として着手することを決定しました。

●渋滞避ける車両が通学路へ流入

安食交差点は、国道356号と県道成田安食線が交差する交通の要所地。利根川方面や成田市方面からの車両が合流した後、印西市小林方面へ向かう右折車両による渋滞が慢性化しています。

同交差点付近は通学路に指定されているものの、歩道が未整備の状態。児童生徒をはじめとする歩行者と自動車との接触事故が懸念される上、渋滞を回避する車両が大鷲神社前を通る脇道に多



く進入する現状にあり、「子どもたちの脇を車がすり抜けて危険だ」との声が聞かれてきたのです。

●右折レーンない十字路ゆえ

ところで、右折車両による渋滞の解消策としては、時差式信号機や矢印式信号機の導入が効果的ですが、ここで問題となるのが、安食交差点が右折レーンのない十字路であることです。

というのも、T字路や右折レーンのある十字路では時差式信号機等の導入が可能である一方、右折レーンのない十字路では接触事故を誘発しかねないことと、時差式信号機等の導入ができないこととなつていからです。したがって、安食交差点の渋滞対策を行うには、新たに右折レーンを設置する交差点改良事業が必要であると見られてきました。

●岡田町長と二人三脚で取り組み

今回決定した交差点改良事業では、安食交差点とその北側にある消防団分署前交差点の間を3車線化した上で、双方に右折レーンを設置。大鷲神社側



31年度さらに部分開通へ

県道千葉竜ヶ崎線バイパス

印西市草深地先から国道356号(木下)駅南口入口交差点までを結ぶ県道千葉竜ヶ崎線バイパス事業は、平成31年度中に木下駅寄りの約0.7kmについて、部分開通の見込みであることが明らかとなりました。



●現道の狭さが大森交差点の渋滞原因に

いわちゃんポスト1月号において、車線を絞るポストコーンが国道356号・大森交差点の渋滞を招いていると指摘したところですが、同交差点のもう一つの渋滞原因が、県道千葉竜ヶ崎線(現道)の線形不良や幅員の狭さです。

同線は、千葉NT地区と国道356号を結ぶ幹線道路であり、近年は近隣に大型物流施設の進出が相次いだことから、大型車など業務用車両の往来も目立つようになっていす。しかし、現道区間は線形が良くなく、歩道が確保できないほど幅員が狭い上、大森交差点においては右折レーンを設置できないことから、朝夕はもちろん日中でさえ車両が数珠つなぎ状態となっているのです。

●グッドマン物流施設付近 300mが部分開通

そのような中、進められているのが千葉竜ヶ崎線バイパス事業。現道の交通混雑解消と歩行者の安全確保を図るとして、印西市草深地先と同大森地先の国道356号・駅南口入口交差点間の2.5kmに新道を設置するものです。

この1月にはグッドマンビジネスパーク付近の約300mが部分開通し、未開通区間は残り2.2kmとなっています。



●予定地途中に墓地 同意を得るべき関係者数百名

県の発表によれば、既に着手している駅南口入口交差点付近の工事を進め、平成31年度中にはJR木下駅寄りの約0.7kmの開通を予定。用地買収も最終段階に入り、順調に進捗しているとのことです。

一方、難航が予想されるのは最後に残る1.5kmの区間。予定地の途中には共有地名義となっている墓地があることから、同意を得るべき関係者は数百名規模に上ると見られ、最終区間の開通年度の見込みは立っていません。

印西市を選挙区とする地域の県議として、早期開通に向けしっかりと働きかけてまいります。

と印西市側で生じている「道路のズレ」も解消することとしています。来年度は現地測量とともに詳細設計の作成に着手。完成時期は白紙状態ですが、必要となる土地の取得が進めば、比較的早い完成も見込まれると見られます。

にて度々取り上げてまいりましたが、栄町においても岡田町長が先頭に立ち、必要となる土地取得の準備を進めてきたこと等が奏功したものです。同事業の早期完成を目指し、引き続き、岡田町長と二人三脚で取り組んでまいりたいと思

房総のむらコスプレ撮影禁止～ルール化で4月再開へ

今年2月、栄町にある「県立房総のむら」が、コスプレ姿での撮影の予約中止（※）を発表。コスプレイヤーの間で人気が広がっていた施設だけに、関係者からは困惑の声が上がっています。

●江戸屋敷を再現 コスプレイヤーの人気スポットに

昭和 61 年に開館した県立房総のむらは、江戸時代から明治初期にかけての商家や武家屋敷などが再現された体験型の博物館。成田空港に近い立地から訪日外国人からの人気も高く、年間利用者数 25 万人は計 8 館ある県立博物館・美術館の中で最も多です。



特に近年は、アニメや漫画のキャラクターに扮したコスプレイヤーの人気のスポットとなっていました。園内にある時代ものの屋敷は、「インスタ映え」する絶好のロケーション。週末には、それを目当てにした若者たちが、衣装を詰めた大きなスーツケースを引いて、多く訪れていたのです。

●過激コスプレ、模造刀振り回し等の迷惑行為

今回問題となったのは、施設の雰囲気に合わないコスプレと一部のマナー違反。

房総のむらでは和装、時代衣装に限りコスプレ撮影を認めていましたが、事前申請とは異なる洋装だったり、過度な露出や血のりといった過激なコスプレだったりするケースに加え、模造刀を振り回した

り、施設に上がり込んだ上、ふすまを閉め切ってしまうといった迷惑行為があったと言います。

房総のむらは、小中学生が校外学習でも利用する教育振興施設。県は他の来館者への影響を考慮し、コスプレ撮影禁止に踏み切った形です。

●具体的なルール作り着手 4月から受付再開

とはいえ、こうした迷惑行為を行うコスプレイヤーは一部であり、マナーを守るコスプレファンを含め全てを禁止にすることについては異論の声も聞かれます。

これまで「おまもりください」との注意ビラ（写真上）が配布されていましたが、「博物館としてふさわしくない行為」といったあいまいな表現であるため、どこまでなら OK でどこからが NG なのかが判然としない状況でした。県は、他の同様施設の事例を参考に、コスプレに関するより具体的なルール作りを着手しており、新ルールの利用者への周知徹底を図りながら、4 月からの受入れ再開を目指すとしています。

これを契機に、マナーを守る健全なコスプレイヤーが集まる房総のむらになってもらいたいと思います。

おまもりください

房総のむらは、博物館です。衣類に着替えて撮影をする場合、次の事項は禁止いたします。

- 時代設定（江戸～明治初期の日本）に合わない衣装、下着が見えたり、露出の多い衣装。
- 卑劣な行為を演じさせたり、大起なポーズ、血顔などによる装飾。
- 障子や障戸を閉める事。
- 展示の撤去（展示に長時間とどまったり、他のお客様への通行を妨げる事）。
- 武家屋敷の屋内、体験スペース、2 階展示室、平野家・獅子神家、旧学習院初等科正室内部での撮影。
- 撮影時以外の放り、その他危険と思われる行為。
- 着替え場所での飲食。
- 園路以外の林などに立ち入りの撮影。
- 他のお客様とのトラブル。
- 博物館としてふさわしくない行為。

※職員から指示があった場合には、従ってください。着替え場所の清掃に協力下さい。撮影用衣装は別途にお申し込みください。着替え場所の使用は 18:30 までとさせていただきます。

房総のむらのコスプレ禁止

栄町にある体験型博物館、房総のむらで、コスプレの撮影が問題となってますか？

ほんと？

そうなんだ。園内にある時代もののインスタ映えの絶好スポットとして、露出などの人気なコスプレや、血のり、模造刀の振り回し、迷惑行為が過度なまでに増えているんだ。

一方、これまで園内で発表された注意ビラは、あいまいな表現であるため、利用者への周知が求められていたんだ。

県は、4月からの受入れ再開を目指し、準備を進めているところ。準備を進めたいですね。

※受入れ中止は洋装やアニメコスプレであり、「コスプレの館」で貸し出される和装コスプレや時代衣装は入場可能です。

長門川の河川改修事業化 長年の要望活動が結実

土がむき出し状態で、河岸の浸食が問題となっていた長門川。県は国に予算要求を実施し、40 億円規模となる護岸改修の事業化が確実となりました。町とともに、県議会にて続けてきた要望活動が結実したものです。

台風 26 号での印旛沼放水で八千代市内冠水

近年、台風やゲリラ豪雨といった大水への懸念が高まる中、印西市と栄町を挟んで流れる長門川の整備が強く求められるきっかけとなったのが、平成 25 年 10 月の台風 26 号です。



同台風では、佐倉市中心市街地や酒々井町内の農地など、広範囲で深刻な冠水被害に見舞われましたが、これらは想定外の雨量により高崎川の水が溢れたことによるもの。一方、八千代市内の 376 棟もの床上・床下浸水被害は、印旛沼水の新川への放流により沿川家屋で発生しています。印旛沼の一部で水が溢れだしたことに伴う緊急措置であったとはいえ、印旛沼増水時の新川への放流のあり方や、新川とともに印旛沼水の放流河川である長門川が注目されることとなりました。

長門川の護岸整備 町とともに重ねての要望



護岸整備が行われていない長門川

しかし、長門川の河岸は、コンクリート護岸整備はおろか木柵による補強もほとんど行われておらず、ふだんから流水による浸食、洗掘が問題視されているのが現状。まして、大水時に印旛沼水の放水が行われれば、ただでさえ軟弱な河岸の土が一気に持っていかれると、農家をはじめとする地元住民から悲鳴の声が上がっていたのです。

この課題については地元自治体である栄町と共有し、印旛沼関連市町連絡会議等を通じた県への要望活動を実施。自身の県議会一般質問においても、平成 27 年 2 月議会以降、機会がある度にその対策を訴えてきました。県は国への予算要求に際し、長門川の河川改修事業についての協議を進め、この 1 月、防災・安全交付金の新規事業として、長門川護岸改修の事業化が確実となったものです。

ふじみ橋～酒直水門 4.3km 完成は H49 年度

事業内容としては、長門川の下流域に位置するふじみ橋～酒直水門の約 4.3km について、築堤工事（護岸工）を実施するというもの。総事業費 40 億円、工期は平成 30 年から 49 年までの 20 年間を見込みます。また、計画堤防高（Y.P+3.6m）が不足している箇所築堤を行うとともに、堤防の安定を図るため、鋼矢板基礎を設置。河道の流下能力を確保するため、一部で川床の掘削も行う予定です。

事業化の目途がついたとはいえ、ようやくスタートラインについたという段階。設置すべき優先箇所や工事のあり方といったことについて、地域住民の声を拾い上げていくとともに、早期完成に向けて引き続き強く働きかけてまいります！

地域の課題について

声をお寄せください

身近でお困りな事、疑問点等ありましたらお気軽にご連絡を。改善のため、しっかり働きかけてまいります！



岩井やすのり事務所

〒270-1505 印旛郡栄町安食台 2-26-23-202
tel 0476-36-7799 fax 0476-36-7802
メール mail@iwai-y.jp